

備前市ハザードマップの発行について

この冊子「備前市ハザードマップ-風水害・土砂災害に備えて-」には、国土交通省及び岡山県が公表している浸水想定区域図と土砂災害危険箇所図（土砂災害警戒区域図を含む）をまとめて掲載しています。これらの地図はこれまでの災害に関する研究や情報の蓄積によって、大雨や台風などにより土砂災害や洪水の危険性を科学的な予測に基づいて作成した地図です。浸水する範囲や土砂災害の危険のある地域を事前に知っておき、いざという時に備えましょう。

風水害

雨の強さと降り方

1時間雨量	10～20ミリ やや強い雨	20～30ミリ 強い雨	30～50ミリ 激しい雨	50～80ミリ 非常に激しい雨	80ミリ～ 猛烈な雨
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。 	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。 	山崩れやがけ崩れが起きやすくなる危険な地域では避難の準備が必要。下水管から雨水があふれる。 	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。 	雨による大規模な災害の発生のおそれがある。厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

平均風速	10～15 メートル/秒	15～20 メートル/秒	20～25 メートル/秒	25～30 メートル/秒	30～ メートル/秒
建造物の被害	取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める。 	ビニールハウスが壊れ始める。 	鋼製シャッターが壊れ始める。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。 	ブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外装材がはがれ、飛び始める。 	屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊が始まる。

こんな時は水害に要注意!

集中豪雨のとき

わずかな時間に狭い範囲で強い雨が降ると、排水しきれない雨水が一度に低い土地にたまって大きな被害につながる可能性があります。



台風の時

強風による倒木や家屋の被害、台風にもなう強い雨による被害が出る危険性があります。テレビやラジオの情報に注意して避難の準備をしておきましょう。



土砂災害

土砂災害には、**がけ崩れ**、**地すべり**、**土石流** の3種類があります。

がけ崩れとは

雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。突然起きるため、逃げ遅れる人も多く死者の割合も高くなっています。



地すべりとは

斜面が地下水の影響と重力によってゆっくりと下方に移動する現象のことをいいます。一旦動き出すとこれを完全に停止させることは非常に困難です。



土石流とは

山腹、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されるものをいいます。一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



土砂災害の前兆現象

このような時は、土砂災害の危険性があります。早めに避難しましょう。

 がけに割れ目が見える。	 がけから水がわき出ている。	 がけから小石がばらばらと落ちてくる。がけから音がする。	 斜面から水がふき出す。	 沢や井戸の水が濁る。
 地面にひび割れができる。	 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。	 山鳴りがする。	 急に川の流れが濁り流木が混ざっている。	

この冊子のご利用にあたっての注意

浸水想定区域図の浸水想定は下記の雨量を元に予測しています。

- ◆吉井川 流域の2日間総雨量285mm(概ね150年に1回程度起こる大雨)
- ◆吉井川系干田川・香登川・油杉川 干田川流域の1日雨量143mm(概ね70年に1回程度起こる大雨)
- ◆吉井川系金剛川・八塔寺川 金剛川流域の2日間総雨量242mm(概ね70年に1回程度起こる大雨)

土砂災害危険箇所図について

- ◆土砂災害危険箇所とは、土砂災害による被害のおそれがある箇所を示したものです。
- ◆土砂災害危険箇所の土地の範囲は法律で行為等が制限されているものではありません。また、土砂災害の発生や被害の範囲について証明するものではありません。

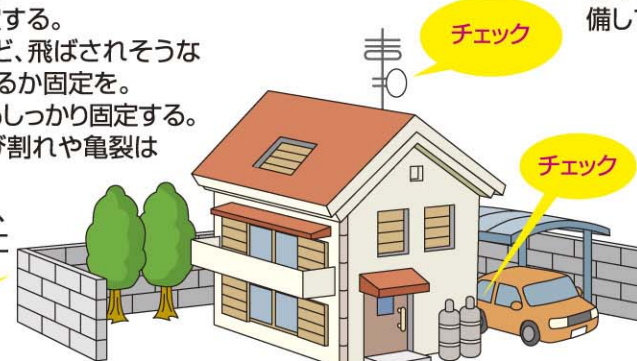
風水害に備えて

台風や豪雨は、正確な気象情報を収集し、予想される事態への対策をとることで、被害を最小限にとどめることができます。

平常時の準備

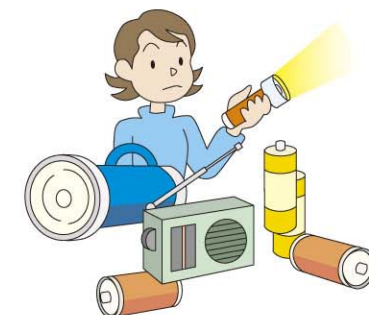
■家のまわりを保全する

- 雨戸や屋根を補強する。アンテナはしっかり固定する。
- 鉢植えや物干しざおなど、飛ばされそうなものは屋内へ移動させるか固定を。プロパンガスのボンベもしっかり固定する。
- ブロック塀や外壁のひび割れや亀裂は補強する。
- 側溝や排水溝は掃除し、水の流れをスムーズにしておく。



■停電に備える

懐中電灯や携帯ラジオ、予備の電池を準備しておきましょう。



■非常持出品の準備

避難勧告や指示が出たとき、すぐに動けるように、貴重品や非常持出品の準備を。



■断水に備える

飲料水を確保する。また、浴槽に水を張るなどして、トイレなどの生活水の確保も。



いつでも避難できるように!!

避難時の心得

避難の際には次のことに注意しましょう。

1. 動きやすく安全な服装で

ヘルメットや防災ずきんで頭を保護し、靴はひもでしめられる運動靴を。裸足・長靴は厳禁です。



3. 単独行動はしない

避難するときは2人以上で。はぐれないように、ロープで結んで避難しましょう。



4. 深さに注意

水が流れていない状態で歩行可能な水深は男性で約70cm、女性で約50cm。水が腰まである場合は、高所で救援を待ちましょう。



2. 足もとに注意する

水面下には、マンホールや側溝などの危険な場所が。長い棒をつえ代わりになって、確認しながら歩きましょう。



5. 子どもや高齢者に配慮する

高齢者や病人などは背負い、子どもには浮き袋を着けさせて、安全を確保しましょう。

